



『岡山市民健康づくり』ウォーキング 大崎コースマップ

お遍路道の石仏を巡る

弘法大師(空海)の遍歴に始まった四国遍路は室町時代頃から盛んになり、江戸期に入るとその巡礼の「おかげ」を身近に移し、祀る八十八箇所霊場が全国各地に拡まりました。大崎八十八箇所霊場も江戸末期に地域の有志により心を込めて作られた各霊場の「写し」です。

道中には別の石仏も祀られており、「弘法大師」「本尊」が対になっているのが霊場札所です。

お参りの際は「南無大師遍照金剛」を三回唱えます。

- 第1番 霊山寺 釈迦如来
 - 第2番 極楽寺 阿弥陀如来
 - 第3番 金泉寺 釈迦如来
 - 第4番 大日寺 大日如来
 - 第5番 地藏寺 勝軍地藏菩薩
 - 第6番 安楽寺 薬師如来
 - 第7番 十楽寺 阿弥陀如来
 - 第8番 熊谷寺 千手観世音菩薩
 - 第9番 法輪寺 涅槃釈迦如来
 - 第10番 切幡寺 千手観世音菩薩
 - 第11番 藤井寺 薬師如来
-
- 第79番 天皇寺 十一面観世音菩薩
 - 第80番 國分寺 十一面千手観世音菩薩
 - 第81番 白峯寺 千手観世音菩薩
 - 第82番 根香寺 千手観世音菩薩
 - 第83番 一宮寺 聖観世音菩薩
 - 第84番 屋島寺 十一面千手観世音菩薩
 - 第85番 八栗寺 聖観世音菩薩
 - 第86番 志度寺 十一面観世音菩薩
 - 第87番 長尾寺 聖観世音菩薩
 - 第88番 大窪寺 薬師如来

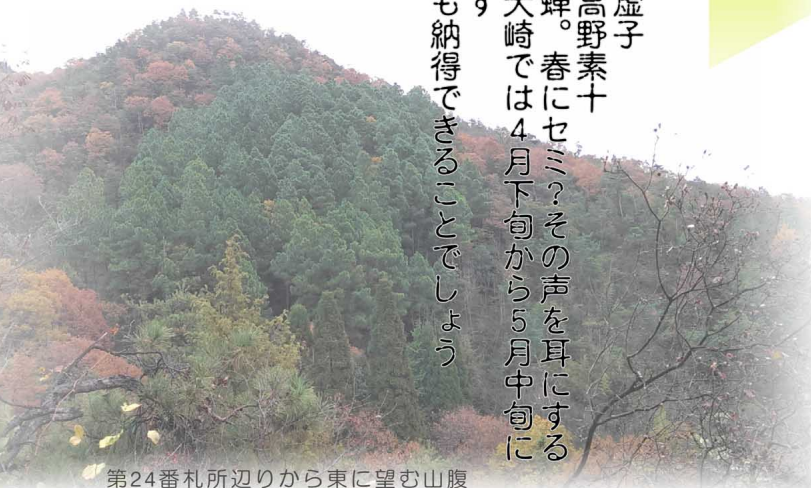


大崎の自然

松蝉(和名ハルゼミ)

「珊」と松蝉の声揃ひたる「高浜虚子」
「松蝉や二つ三つづつ鳴き揃ふ」高野素十
晩春の季語として詠まれてきた松蝉。春にセミ?その声を耳にする機会はありませんか?もしも春に大崎では4月下旬から5月中旬にかけて新芽あふれる春を謳歌します。鳴く様を聞けば虚子や素十の俳句も納得できることでしょう。

大王松(ダイオウマツ)
古来の赤松が立ち枯れを始めて久しく三上山も決して例外ではありませんが、行者道の中腹では植林された大王松の林が青々と斜面を染めています。長い松葉と二十センチにもおよぶ松毬は第六十四番札所付近から七十三番札所あたりで見ることが出来ます。



第24番札所辺りから東に望む山腹

大崎八十八箇所の歴史

文政六年(一八二三年)大崎村の初代有松万助が大峰山より写しを行い山上大権現霊場を開いたのをはじめ翌年、小山多聞院住職・真龍和尚が大崎古墳群に属する数多くの古墳の石室をも利用して『大崎八十八箇所遍路道』を勧請すると共に知足院を建立、文政九年に開眼供養をしました。この遍路道が「岡山市民健康づくり」ウォーキング大崎コースとして、いま、甦ります。



大崎古墳群

古墳時代後期、六世紀後半から七世紀中頃にかけて築造された横穴式石室を中心にして七〇基ほどから成る大崎古墳群は太古よりこの地が栄えていた証し。中でも群中最大の知足院古墳(第十八番札所)は巨石を多用した全盛期のもので圧巻の玄室を堪能できます。

いっぽう修行道に連続する小規模石室は七世紀に入って古墳がより一般に広まりやがては終焉に向かう流れを、その後には造られた大崎廃寺と共に今に伝えます。



完存する知足院古墳(第18番札所)の開口部



大崎廃寺跡



7世紀代の小石室(第69番札所)



両袖式の玄門をもつ第31番札所の石室

ご案内

お車でお越しの際は、高松最上稲荷の大鳥居を通過したのち左折して下さい

大崎地区に公衆トイレはありません。高松城址公園等をご利用ください。

一般的なマナーはよろしく願います。

地域ボランティアにより遍路道の保守に努めてはありますが夏期間、また不測の倒木等で通行が困難な場合もあります。ご了承ください。



第86番札所=大師堂内



2013年秋、大崎の水田に飛来したコウノトリ